

2023 年度

NACS 中部支部 活動報告書

I. 2022 年度活動報告	.. 1～19
1. 活動概要	
2. 各委員会より	
3. 各分科会より	
4. 各研究会より	
II. 2022 年度予算執行状況	.. 20
III. 2023 年度運営方針、予算	.. 21
IV. 賛助会員・支部会員数	.. 22
V. 2023 年度運営体制	.. 22

公益社団法人 日本消費生活アドバイザー・コンサルタント・相談員協会 中部支部

2023 年 6 月

I. 2022 年度活動報告

はじめに

2022 年度は引き続き” ウイズコロナ” 下で、利用の進むオンライン会議など ICT 活用と共に、感染対策に気遣いながら従来のような対面による会員活動を進めてきた 1 年でした。

1. 活動概要

中部支部の活動について、「消費者啓発と人材育成」「企業・行政との連携」「支部運営と会員の相互研鑽や交流」「会員への情報提供と広報活動」の 4 つに分け、以下報告いたします。

1-1. 消費者啓発と人材育成

消費生活全般についての講座、セミナー等を開催して行う啓発活動及び人材の育成を行う事業

(1) 学校講師派遣事業

派遣依頼は残念ながらありませんでした。

(2) 一般講師派遣事業

6 件講師派遣依頼がありました。

- ・消費者教育専門分野チーム研「講師としての実践力」(愛知県 5 月 25 日)
愛知県の消費生活相談員向けの出前講座。
- ・親学アクション「家族みんなで学ぼう SDGs」(名古屋市 7 月 5 日)
名古屋市内小学校への出前講座。
- ・ゆうゆう学級 「時代に追いつく情報モラル」(小牧市 7 月 6 日)
高齢者(平均 75 歳)を対象とした講座。インターネットや SNS の利用経験が少ない方の参加を想定し、ICT 利用の利点と気を付ける点を再現映像などの動画も織り交ぜてお伝えした。
- ・消費生活講座「エシカル消費とは 環境に良い買い物上手になるために」(知多市 7 月 7 日)
8～9 割が高齢者を対象とした講座。ただ消費するだけでなく、環境のことを考えた環境に良い買い物をするための正しい知識やポイント、SDGs についてお伝えした。
- ・成年年齢引き下げに関連したトラブル対応、相談員向けの講座を実施(岐阜県 12 月 7 日)。
若者のトラブルを効率よく聴き取る為に、若者が巻き込まれやすいトラブル事例からその特徴とスマホや SNS が絡む相談を受けた場合の対応を主に講座を構成しました。
- ・浜松市きたっこ「初めてさんのスマホレベルアップ講座(携帯電話編)」(浜松市 11 月 5 日)
詳しくは静岡分科会報告参照

(3) 消費者啓発事業

①消費者関連規格標準化セミナー

経済産業省・一般財団法人日本規格協会との共同事業として大学生を対象とした標準化セミナーを開催しました。詳しくは事業委員会報告参照

②産業人材研修センターセミナー

広く一般参加を募った公開講座として、講師に京都精華大学前学長のウスビ・サコ氏をお迎えし開催(1 月 29 日)しました。詳しくは事業委員会報告参照

③有資格者交流会

消費生活アドバイザー更新会場の隣室で、有資格者交流会を開催(9 月 17 日)しました。
詳しくは事業委員会報告参照

④消費生活アドバイザー 2 次試験相談会

3 年ぶりに対面による相談会を開催しました。詳しくは総務委員会報告参照

1-2. 企業・行政との連携

企業や行政と協働、連携し消費者利益と企業活動の調和した社会を目指し行う事業

(1) Amazon 事業 Z 世代向け消費者問題フォーラム

昨年に引き続いてアマゾンジャパン合同会社の支援を受け、成年年齢引き下げに対応した消費者啓発事業として本部プロジェクトに中部支部からも参画しました。

今年度は「Z 世代と考える最近の消費者問題」と題したフォーラムを 2 月 25 日に開催しました。フォーラムでは、京都産業大学の坂東俊矢先生をコーディネーターとしてお迎えし、メイン会場とオンラインで全国各地から参加した学生が、Z 世代に多い消費者トラブルでもある「美容

医療」と「副業トラブル」をテーマに熱いディスカッションを繰り広げました。若いZ世代の消費者問題に向き合う真摯な意見や姿勢が引き出されたこのフォーラムの様子(動画)は、本部ホームページの新着情報 2023. 3. 1 よりご覧いただけます。

(2) Google 事業「高齢者の ICT リテラシー向上のための啓発」

本年度は昨年度消費者庁事業で作成した消費者啓発動画の活用のための進行表作りをおこないました。詳しくは総務委員会報告参照

(3) 消費生活に関する行政イベントへの参画事業

- ・岐阜市主催「岐阜市消費生活展」出展 11月20日(日)、カラフルタウン岐阜
- ・名古屋市主催の『なごやエシカルフェア☆2022』出展 11月26日(土)、オアシス21

(4) 行政関係委員

石川県、静岡県、名古屋市など地域自治体の消費生活審議会委員として消費者行政に参画しています。

1-3. 支部運営と会員の相互研鑽や交流

(1) 支部大会

コロナ感染対策を徹底し3年ぶりの会場開催としました。また、オンラインも併用し他支部からの参加も含め、会場37名、オンライン35名となりました。

恒例の講演会は、講師にcocoroè代表、ソーシャルデザイン・プロデューサーの田中美帆氏をお招きし、『共創で社会をつなぐ、ソーシャルデザインとは? ~社会の課題解決や価値創造に、デザインを活用する考え方とその手法~』の講演をいただきました。

久しぶりの対面での支部大会とあって、会場からは「久しぶり!」「やっぱりこうやって会えるのっていいね!」という声も聞こえてきました。

(2) 運営委員会・全体会議の開催

支部活動の円滑な運営のため月1回開催を基本として、運営委員会を実施しました。また、分科会との情報交換のため分科会との意見交換会および、年度末の全体会議を実施しました。

詳しくは総務委員会報告参照

(3) 分科会活動

愛知県を除き6県4分科会があり地域ごとに活動を進めています。詳しくは各分科会報告参照

(4) 消費生活に関する研修会・自主研究会の開催

会員の学ぶ意欲に応えるため研修会を開催すると共に、自主研究の場としての研究会へ活動資金を援助しています。

研修会はオンラインを活用しつつ、対面開催もしました。詳しくは研修委員会報告参照

自主研究会は、名古屋市を拠点に3つの研究会が活動しています。詳しくは各研究会報告参照

- ・研究会 ACT(1995年~)、食生活研究会(1999年~)、AD・CS研究会(2003年~)

(5) 合格祝賀会&仲間づくりの会

消費生活アドバイザー新資格者へのNACS活動紹介とNACS会員との交流会を4年ぶりに対面で開催しました。

- ・2023年3月18日(土)、名古屋市ウインク愛知、新資格者7名
- ・河上会長ビデオメッセージ、支部活動紹介、研究会活動紹介

1-4. 会員への情報提供と広報活動

メーリングリストおよび会員情報誌「セントラルC+」により会員への活動情報を提供しています。また、支部ホームページを活用し一般の方への活動紹介を実施しています。

(1) メーリングリストによるタイムリーな情報提供

- ・支部での研修会や他団体主催セミナーなど、開催に合わせて募集やご案内を配信しました。また、他支部会員向けには本部マイページを活用してご案内しました。

(2) 会員情報誌「セントラルC+」の発行 詳しくは会員活動委員会報告参照

- ・支部事業と共に各分科会、各研究会での活動を紹介しました。発行は年4回。

(3) 支部ホームページの管理 詳しくは広報委員会報告参照

- ・行事スケジュールの公開、新着情報の更新および会員ページへの情報掲載を実施しました。

2. 各委員会より

会員活動委員会

会員活動委員会は、おもに会員情報誌セントラルC+の作成と支部行事や分科会の活動報告のHP原稿を担当しています。また、2022年度は他の委員会と協力し「合格お祝いと仲間作りの会」や更新講座の際の有資格者交流会の運営にも携わりました。

セントラルC+は、2019年10月発行の秋号から電子化を進め、2022年春号より電子版のみとなりました。完全電子化に至るまでには、紙媒体のセントラルC+郵送時にメーリングリスト登録のお願いの文章を同封したり、支部会員から知り合いや職場の同僚としての立場から直接登録の呼びかけをしていただきました。そのような地道な活動が功を奏し、現在では約9割の支部会員がメーリングリストに登録しています。また、都合によりメーリングリストに登録をしない会員もホームページの閲覧で情報が得られるよう配慮しています。

電子版は、紙媒体と異なり、写真やイラストがカラーで見られ、活動内容がより臨場感あふれるものとなっています。また、関連する情報にアクセスできるリンクを張るなど電子版ならではの使い勝手にしました。会員からは、必要なページを印刷してじっくり読んでいる・カラーだから写真がリアルに見られ、活動内容が伝わってくる・いつでもスマホで見られるなどの声をいただいています。また、自発的に執筆していただける研究会・分科会や喜んで執筆していただける方が増えたようにも思います。

今後は中部支部会員の消費生活アドバイザーとしての活動や思いをC+に掲載したり、会員の生の声を拾ったりして、会員が参加したくなるNACS中部支部の活動を模索していきたいと思います。

・セントラルC+

春号（4月）、夏号（7月）、秋号（10月）、冬号（1月）と年4回発行しています。



行事の写真やNACSで作った教材のお知らせも掲載しています。季節に合わせたイラストや、会員が撮影した「とっておきの一枚」を掲載すること。

2022年夏号の表紙です

2ページ以降は、見学会・研修会への参加報告や分科会・研究会の活動報告など、消費生活に関わる情報満載！

最近の分科会・研究会の活動およびその報告は超力作。中部支部会員の活躍ぶりや知恵・研鑽・ほっこりする話の数々が盛り込まれています。

過去の研修内容の復習や出席していない行事の情報取得ができます。

広報委員会

広報委員会では、中部支部ホームページの管理、編集、メーリングリストの管理・運用等を担当しております。

2022年度は、SNSを含めたホームページ活用に向けたアンケート調査を実施いたしました。現在、NACS本部ホームページの改修が検討されているところですので、2023年度は、継続して、本部ホームページ改修と連携した形で、支部のホームページの改修を実施してまいります。

メーリングリストについては、会員の登録率も90%を超え、本部の新会員管理システムの運用も開始されたことから、中部支部としては、本部から案内のない支部主催の行事、中部の会員活動委員会にて作成している機関紙C+の配布など、支部独自のご案内に活用しています。

ご意見やご要望等がございましたら、ぜひ、広報委員会までメールにてお寄せください。よろしくお願いいたします。

広報委員会の連絡先 kouhou@chuubu.nacs.or.jp

(1) メーリングリスト

新規登録・アドレス変更は随時受け付けておりますので、中部支部会員ページの「メーリングリスト」よりお申し込みください。

- ・現在登録者数 245名（総会員数268名）
(愛知148名、静岡35名、三重24名、北陸17名、岐阜19名、他2名)
(2023年3月時点で、全会員数の91.4%の方に、ご登録頂いております。)
- ・配信状況 約70件/年

(2) ホームページ

トップページは、カレンダーで一か月の活動を一目で確認できます。事業・研修の申し込みは、申し込みフォームから簡単に行っていただけますので、ぜひご活用ください。

主な更新内容 2022年4月～2023年3月

コーナー	時期	更新件数	内容
新着情報	随時	10件	情報掲載
これまでに開催した事業	随時	22件	情報掲載
会員向け新着情報	随時	12件	情報掲載
活動カレンダー	都度	62件	内容書き込み
運営委員会議事録	毎月	12回	PDFファイルの登録
会員情報誌セントラルC+	四半期	3回	PDFファイルの登録
全体会議議事録	2・3月	2回	2・3月 PDFファイルの登録
支部大会告知	4月		トップページ画像制作 PDFファイルの登録ほか
トップページ画像	不定期		適宜差替え

中部支部会員、会員外への広報として、ホームページは重要なツールです。2023年度も、NACS本部の会員ページとの連携を含め、SNSを含めたホームページ活用、再構築を継続検討してまいります。特に支部会員同士のコミュニケーションが取れるような仕組みの検討、分科会や研究会の活動成果について、会員内、会員外の行政や企業を含めた一般の方へアピールできたり、成果物を活用しやすくなるような仕組みを、運営委員の皆さんの意見なども聞きながら検討してまいります。

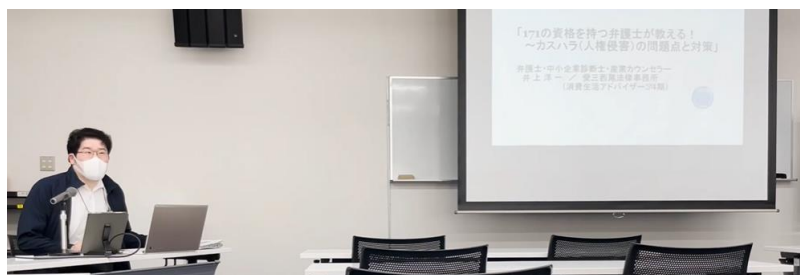
また、コロナ禍で培ったオンライン手法には、主に名古屋市内で開催される中部支部行事に、遠方からも参加しやすくなるなどのメリットもあります。今後も、リアルとハイブリット運用を上手に活用していくべく、リアルだけでなくオンラインでも満足が得られるような、よりよい方法を検討してまいります。

研修委員会

2022年度におきましては3回の支部研修会を実施いたしました。うち2回は3年ぶりに対面形式で開催することができました。

(1) 第1回研修会 「ハラスメント（人権侵害）の問題点と対策」（参加者数：13名）

2022年7月30日（土）14:00～15:30、なごや人権啓発センター研修室にて、NACS 会員で弁護士、中小企業診断士をはじめ数々の資格を保有する井上洋一氏を講師にお招きし、カスタマーハラスメントの問題点と対策についてお話しいただきました。法的問題についての解説に加え、具体的な事例の紹介とロールプレイングにより、対処法についても実践的に学ぶことができました。参加者からは「実際の事例を紹介していただき、効果的な対処法は相手のタイプによって異なるということがよく理解できた」「ロールプレイングの実演もあり、対面研修ならではのよさをあらためて感じた」などの感想が寄せられました。



(2) 第2回研修会 「衣服の着心地—科学的視点から—」（参加者数：35名）

2022年9月10日（土）14:00～16:00、Zoomを利用したオンライン開催にて、講師に名古屋文化短期大学学長、医学博士の成瀬正春氏をお招きし、科学的なエビデンスに基づいた衣服の快適性についてお話をうかがいました。参加者からは「衣服素材の最新の機能について学ぶことができて大変参考になった」「暑さ寒さを感じるメカニズム、衣服の保温力指標など新たな知識を得ることができた」「衣服の着心地の数値的評価など科学的な説明に説得力があった」などの感想が寄せられました。成瀬氏には、事前に募集した質問にも丁寧にお答えいただき、聴講者の理解の深化につながりました。

(3) 第3回研修会 「食品の安全性」（参加者数：16名）

2022年10月1日（土）14:00～15:30、アイリス愛知にて、講師に元愛知県衛生研究所衛生化学部長、薬学博士で、現在は複数の大学で講師を務められる猪飼誉友氏をお招きし、食品の安全性について、農薬や環境汚染物質、遺伝子組み換えとゲノム編集、輸入食品など、多岐にわたりお話をうかがいました。講義後は活発な質疑応答が行われ、和気あいあいとした雰囲気が印象に残りました。参加者からは「食品の安全について、消費者が知りたい事柄について適切に取り上げていただき、分かりやすく解説していただけた」「食品の安全に関する現在の問題点を提示していただき、問題意識を持つことができた」などの感想が寄せられました。



2023年度は更に多くの方にご参加いただけるよう、時事的なテーマの研修会を実施したいと考えております。研修会の充実に向けて、忌憚のないご意見、ご要望を研修委員会までお寄せくださいますようお願い申し上げます。

研修委員会の連絡先：kenshuu@chuubu.nacs.or.jp

（本部事業）学校教育

2022 年度実績

NACS では本部事業として「学校への講師派遣事業」を行っています。中部支部でも講座の実施を目標としていましたが、残念ながら 2022 年度は実施することができませんでした。

2023 年度実施計画

本部から割り当てられる講座実施目標数は未定です。2023 年度、アフターコロナにおいては、複数のアプローチでの学校教育への対応が求められることが予想されます。あらゆる状況の想定を踏まえ、特にオンラインの対応へのニーズにも応えるべく、引き続きオンライン教材の利用の促進に努めてまいります。

また一方で、若者への消費者教育の実施の担い手を確保していく事も重要かと考えます。様々なキャリアをお持ちの会員の皆様から、積極的に講師としての活動機会に手をあげていただき、NACS ならではの消費者教育を展開していただきたいと思います。その為に講座の見学等も可能な限り実施できればと考えます。

事業委員会

2022年度は、事業委員会に関係する事業を5回開催しました。それぞれの事業の実施概要を報告いたします。

(1) 「NACS 標準化セミナーin 中部大学」を2回開催しました。 (前期7月、後期12月)

「もっと安全で便利な暮らしについて考えよう」のテーマで、「NACS 標準化セミナーin 中部大学」を開催しました。セミナーは、令和4年度経済産業省委託事業として、中部大学・名古屋市・NACS 中部支部のコラボ企画として開催しました。2022年度は前期1回、後期1回の計2回開催となりました。コロナ禍が続く中、大学の講義方法に合わせて、すべてオンライン形式でのセミナーでした。

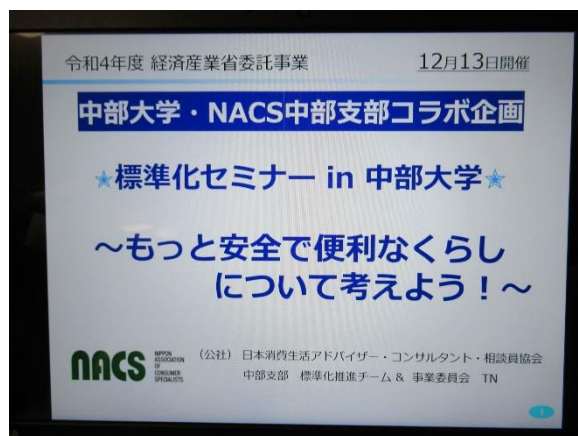
セミナーのねらいは、「標準化について学んできた幅広い知識を活用し、グループワークで更に理解を深め、標準化の重要性・必要性を学ぶ」とことと「消費者視点による標準化のたね探し、標準化することによる課題解決方法と期待される効果を検討する」ことの2点でした。セミナー対象者は、前期が、中部大学経営情報学部で「環境マネジメント」カリキュラムを受講する3年生中心の109名でした。また後期が、同学部で「経営環境」カリキュラムを受講する1年生中心の126名でした。

プログラムは、前半90分が第1部…講義、第2部…グループワーク、後半90分が第3部…グループ代表発表・コメントの3部構成でした。前期(6月30日と7月7日)、後期(12月13日と12月20日)共に同様の内容としました。学生さんたちは熱心に講義を聴き、またグループワークには、NACS 中部支部から前期7名、後期8名がオンラインで参加し、ファシリテーターとして各グループの討議に加わりました。グループワークでは「標準化のたね」について積極的な討議がなされました。更にグループ発表会では、NACS スタッフはコメンテーターとして参加し、発表内容の評価も致しました。

グループ代表発表の内容は、コロナ禍での対応策や新しい生活様式、ビジネスへの対応などの新しい視点に合致した内容が多く、すぐに導入すべきだと考えられる内容ばかりでした。

受講後のアンケート結果では、回答者全員が「参加してよかった」「標準化について理解が深まった」と答え、セミナーの満足度は高かったと思われました。参加したNACS 会員も、学生さんたちとの討議もあり、大変有意義なセミナーとなりました。

(右の画像はオンライン講義のPC画像です)



(2) 「令和4年度名古屋市消費生活フェア」へ ブース出展しました。 (11月26日開催)

「エシカル消費～“誰でも”“気軽に”“いま”、はじめよう!～」をテーマとして「令和4年度名古屋市消費生活フェア」～ なごやエシカルフェア☆2022 ～ が名古屋市の主催で開催されました。

人や社会・環境に配慮した消費行動である「エシカル消費」をはじめとした消費生活に関する様々な知識を、展示や動画、体験ブースなどを通して学んでもらうイベントです。2022年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止に配慮した形式での「対面も含めた展示ブース」「体験型ブース」「動画放映」に分けての開催となりました。NACS 中部支部は、対面型展示ブースに出展しました。

出展準備 開催当日の運営は、AD・CS研究会のメンバーが実施しました。オンラインミーティングを通して、役割分担による出展コンテンツ作成などの準備作業を行いました。NACSは、「被災するのは明日かも？あなたの日常生活をエシカルに見直して防災対策にしましょう！」のタイトルでブース出展し、メンバーが展示物などの解説をしました。

フェアは、11月26日(土)午前10時30分～午後6時に「オアシス21 銀河の広場」で開催され、67団体が参加しました。当日の来場者数は、8000人となり大盛況でした。

(右の画像は出展ブースとスタッフの画像です)



(3)「2022 年度消費生活アドバイザー有資格者交流会」を開催しました。(9 月 17 日開催)

2022 年 9 月 17 日「2022 年度消費生活アドバイザー資格者更新講座」が、(一財)日本産業協会により、名古屋市 IMY ホール 6 階第 3 会議室にて開催されました。更新講座の開催に合わせて、同日同ホール隣の第 2 会議室を会場として「2022 年度消費生活アドバイザー有資格者交流会」を開催しました。交流会は(一財)日本産業協会との共催で、NACS 中部支部として初めての開催となりました。

交流会の目的は、①更新講座受講者に有資格者同士の情報交換など「交流の場」として活用してもらう、②更新講座受講者に広く NACS を知ってもらい NACS に親しみを持ってもらう、の 2 点でした。

会場では、NACS の紹介・中部支部の各委員会の活動紹介・各分科会と研究会の活動紹介などをポスター掲示し、スタッフが丁寧に説明しました。また、会場に入場しやすいムードづくりや来場者がリラックスできる雰囲気になるようなスタッフ対応にも工夫しました。

来場者のご意見やアンケートでは、「交流会参加及び次回交流会参加について」肯定的な意見が多数となりました。

交流会は、11 時から 14 時までの 3 時間の開催でしたが、来場者は、延べ約 60 名となり、初めての開催としては盛況な交流会となりました。

(右の画像は交流会会場一部の画像です)



(4)公開講座「グローバル化・多様性社会において大切なこと」を開催 (1 月 29 日開催)

2023 年 1 月 29 日(日)に、「グローバル化・多様性社会において大切なこと～市民・生活者・消費者として～」と題して、公開講座を開催しました。講師は、マリ共和国(アフリカ)出身の京都精華大学前学長で現在同大学全学研究機構長のウスビ・サコ氏でした。

この公開講座は、(一財)産業人材研修センターと NACS 中部支部の共同事業として開催しました。プログラムは、1 部(13 時 30 分から 15 時 15 分)ウスビ・サコ氏の講演、2 部(15 時 25 分から 16 時 45 分)グループ対話の構成でした。1 部は、対面形式とオンライン形式併用での開催とし、2 部は、対面会場の参加者だけでの開催となりました。対面形式の会場は「ウイंकあいち 1301 会議室」を利用しました。参加者数は、会場参加者 19 名、オンライン参加者 43 名、合計 62 名でした。

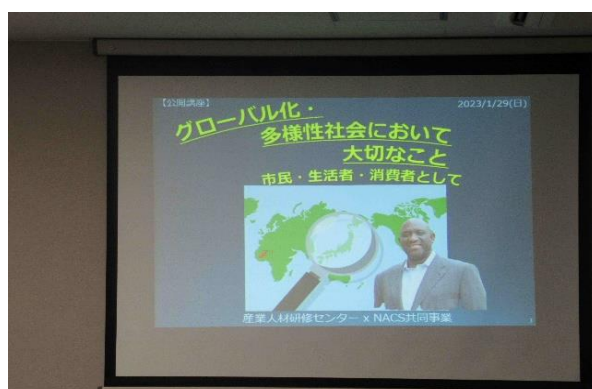
1 部の講演では、ウスビ・サコ氏より、日本の文化やコミュニケーションで、外国人が戸惑いがちな日本人の習性などがわかりやすく説明され、多様性が進むこれからの社会を生きていくヒントが、色々と紹介されました。また、新時代を生きる参加者への力強いメッセージもございました。

2 部は、1 グループ 5～7 名にて 3 グループに分かれ、グループ対話を実施しました。自己紹介のあと、講演受講後に感じたこと・気付いたこと・考えたことについて意見交換しました。また講師のウスビ・サコ氏もグループ対話に参加していただき、更に理解の深まるコメントをいただきました。

受講後のアンケートでは、全員参加の講演は、97 パーセントが大変満足・満足と答えており、受講満足度の高い公開講座でした。また、NACS 会員以外の参加者も多く公益に資する事業となりました。



会場でのウスビ・サコ 氏講演状況



オンライン参加者への同時配信画像

総務委員会

総務委員会は、恒常的に支部活動の円滑な運営を支援する活動を展開しています。
2022年度は、コロナの感染状況を睨みながら、オンライン、対面を交えた活動を展開致しました。

(1) 運営委員会等定例業務について

運営委員会は、毎月休みなく臨時運営委員会1回を含め13回開催。オンライン会議11回、11月はハイブリッド会議、3月は対面での会議を実施し、運営委員間の意思疎通を図りました。運営委員会の議論については中部支部HP会員ページに議事録を掲載しておりますので是非ご覧ください。

また、支部大会は、6月4日に3年ぶりの会場（アイリス愛知）とオンラインによるハイブリッド方式で開催。資料は例年通り作成し会員に郵送配布致しました。

(2) 全体会議

例年、分科会の代表と運営委員、代議員が参加し、年度の支部及び分科会の活動総括、今後の支部運営について活発な意見交換を行い、新年度の活動方向性を確認しています。

コロナ禍により2019年度から、書面審議、オンライン開催などの対応を行ってきましたが、今年度は3月18日(土)にウインクあいちにて4年ぶりに対面で開催致しました。

今回の全体会議では、支部長、各分科会、各委員会より今年度の活動振り返り、来年度活動方針、事業提案、本部・支部への要望について報告を行い、それらを基に今後の活動に向けての意見交換を行いました。

コロナ禍の下での活動も3年目となり、各分科会、委員会からは、状況に応じてオンライン、対面を取り混ぜ、各々の良さを生かした多様な活動の報告がありました。

意見交換では、年会費低減の要望、コロナが影響し講座やセミナーなどで対面だと人が集まらない傾向にあること、支部活動への会員の要望をいかに吸い上げるか、新規入会者の活動への参加が尻すばみ傾向にあること、などの問題提起がされ、それらの対応について活発な意見交換が行われました。

これらの意見を今年度以降の活動に生かすように活動を進めてゆきたいと思います。

(3) 消費生活アドバイザー受験者支援、入会促進活動

・2次試験相談会の開催

10月22日(土)に、スタッフ5名(うち前年の合格者3名)にて3年ぶりに対面で実施しました。参加者9名と例年に比べ参加人数は少なかったものの、前年合格者からの論文作成事例紹介なども含め対面ならではの密なコミュニケーションが参加者と取れました。案内が本部ホームページで展開されたことにより北海道、群馬からの遠隔地からの出席もありました。

出席アンケートは参加者全員から回答をいただき、ネガティブコメントはありませんでした。

・合格お祝いと仲間作りの会の開催

3月18日(土)に中部支部主催の合格祝いと仲間づくりの会を4年ぶりの対面で開催しました。当日は7名の新資格者の皆さんと、活発な意見交換ができ出席者のうち5名が入会をされました。今後も、相談会～仲間作りの会の流れを生かした入会促進を図ってゆきたいと考えています。

(4) シニアのICTリテラシー向上啓発活動

昨年度に引き続きコロナ禍による対面活動制約のもとで支部では下記活動を展開しました。

- ・昨年度消費者庁事業で作成した消費者啓発動画を用いた講座の進行表の作成を進めた。

中部支部は「ネットショッピングを安全に利用するために」を分担し、静岡分科会で担当いただき、模擬講座などの開催を経て、1月下旬に本部事務局に進行表などの資料を提出致しました。

- ・ICT啓発活動「垂直」展開の推進

静岡分科会が昨年引き続き11月5日浜松市北区にて地域団体きたっこの要請で「災害時にもつながれるようスマホのSNSを使いこなそう」を開催しました。

今年度も引き続き活動継続の予定とのことですのでご協力よろしくお願い申し上げます。

総務委員会の連絡先 soumu@chuubu.nacs.or.jp

3. 各分科会より

静岡分科会 2022-2023

代表 河合 康成

2022 年度活動報告

- (1) 活動組織：分科会代表 河合康成、副代表 山岡美須永、会計 山下裕夫
地区役員：東部 森脇和子、中部 山田美代子、西部 和田喜久男
- (2) 活動方針：「つなげよう・広げよう、交流の輪を！」
- (3) 行事内容

当初計画した例会 6 回を予定通り実施（Zoom：5 回、ハイブリッド：1 回）

Zoom 中心となる 3 年目の例会となるが、例会参加数は若干減少（計 102 名 ⇒ 計 94 名）

行事	内容	結果
第 1 回定例会【Zoom】 5 月 22 日（日） (分科会 10、計 10 名)	・演題：「シニアの ICT リテラシー 向上のための啓発講座」 講師：河合康成 氏、山岡美須永 氏 和田喜久男 氏（当会会員） ・FreeTalk：フリーテーマ	ICT リーダーとなる会員 3 名が講師となり、NACS すみれさん教材 6 編（スタート編～旅行編）について、事例をプラスする形で解説されました。
第 2 回定例会【Zoom】 7 月 10 日（日） (分科会 14，支部 3 計 17 名)	・演題：「終活とお金 これで安心 リタイア生活」 講師 1 級 F P 技能士 藤田すづ枝 氏 ・FreeTalk：資格取得の理由 or フリー	ライフプランを叶えるため、自身の家計や資産を知り、資金計画を立て、不足分は家計の見直しや投資の検討が必要になる。投資はリスクを理解して少額で始め、無理しないことが重要であり、各種金融商品についても解説頂いた。
第 3 回定例会【Zoom】 9 月 4 日（日） (分科会 11、支部 4 計 15 名)	・演題：「日々の暮らしで香りを楽しみませんか」 講師：アロマセラピーアドバイザー 神田一郎 氏 ・FreeTalk：フリー	「香りのお話をネット経由で行なう」ため、視聴者には香りのサンプルと日本アロマ協会テキストが送付され、お話と香りを楽しみました。香りを上手に利用すると、生活の質が変わるとのことでした。
第 4 回定例会【Zoom】 11 月 13 日（日） (分科会 12、支部 3 計 15 名)	・演題：「日常生活で役立つコミュニケーション術（メディエーション）」 講師：（一社）メディエーターズ 代表理事 田中圭子 氏 ・FreeTalk：フリー	「メディエーション」は、日常生活の様々なトラブルを解決する手法であり、丁寧に本音を傾聴して、結論を出すまでのプロセスを大切に、当事者自身の解決する力を引き出すことと解説頂いた。
第 5 回定例会【Zoom】 1 月 15 日（日） (分科会 12、支部 4 計 16 名)	・演題：「災害に備えて知っておくべき知識、対策等について」 講師：弁護士 永野海 氏 ・FreeTalk：フリー	永野講師が考案された講演手法は、ドラクエ風クイズに挑みながら、知らないこと（例：被災データは動画がベスト）により、被災後の生活設計に大きな狂いが生じるため、全員真剣そのものでした。
役員会 2 月 13 日 【Zoom】（役員 7 名）	・目的：2022 年度総会報告内容審議	来年度活動体制・方針を決定
2022 年度総会 3 月 12 日 【ハイブリッド】	2022 年度の活動報告及び 2023 年度体制・活動方針について、承認を得ました。 （総会前に昼食会を実施し、リアル参加者 12 名が 3 年ぶりに懇談しました）	
第 6 回定例会 3 月 12 日（日） (分科会リアル参加 12 名 Zoom 参加 7 名 支部 2 名 計 21 名)	・演題：「最近の法律改正と相談現場の現況」 ― 一日常のトピックから改正法を学ぼう！ ― 講師：吉松恵子 氏 国民生活センター相談情報部 総括主任相談員	成年年齢が引下げ後の 18・19 歳の相談件数の増加を皮切りに、改正特定商取引法については「詐欺的な定期購入商法」対策事例を、また改正預託法についてはジャパンライフ事件を、最後に旧統一協会を発端とした寄付の不当な勧誘防止に関する法律について、細かく解説して頂いた。

- (4) 講座講師 派遣（本部依頼）

・今年度は無し。

(5) 本部・中部支部関係（敬称略）

①きたっこICT講座（11月5日（土）、リアル講座）＜浜松市北区女性団体連絡協議会＞

- ・きたっこからの要請に基づき、2回目を実施（昨年度に続き）
- ・今回のテーマ：「災害時にもつながれるようスマホのSNSを使いこなそう」

参加者：山岡・和田・河合

②消費者庁動画教材実用化事業への参画（支部要請による）

- ・担当「ネットショッピングの安全利用」⇒講座（＞60分）進行表を作成⇒支部提出
- ・模擬講座（講師・資料作成 和田）：12月11日（日） Zoomにて実施
- 参加者：相原・大石・山下・北原・山岡・和田・河合 計7名
- ・進行表・関連資料の提出：模擬講座参加者の提案を織り込み、1月22日支部提出済

(6) その他

①会員動向 新規加入：1名、退会：1名 ⇒ 4月時点の在籍者数 42名

②静岡県事業『シニア向け消費者教育（ICT）出前講座』への参画検討の実施

県民生活課から、NACS 本部 ICT 活動を含めて事前にヒアリングを受けたことから、当該事業に参画するための事前検討を有志で実施。（3月～6月）

しかしながら、事業受託は事業者限定するとの県民生活課判断が示されたため、受託事業者（後日、㈱東海道シグマと判明）からの支援要請を待つことになりましたが、残念ながら、当会への支援要請は無かったため、事業参画できませんでした。

2022 年度を振り返って

(1) できたこと ・年6回（計画）の例会の実行（Zoom 形式5回、ハイブリッド形式1回）

Zoom 例会後のフリートーキングやハイブリッド形式でのリアル参加者との昼食会の実施

- ・高齢者向け ICT 普及啓発事業への参画

高齢者女性団体への ICT 講座実施・動画教材実用化事業への参画

(2) できなかったこと ・会員の ICT リテラシー向上意欲の高揚

(3) 残された課題

- ・分科会を超えた会員交流の輪の拡大
- ・分科会活動を担う人材発掘
- ・会員 ICT スキルのボトムアップ

2023 年度活動計画

(1) 活動方針

〈活動スローガン〉「つなげよう・助けよう、交流の輪を！」（昨年度継続）

分科会活動形態を上げ、活動の活性化及び会員交流の推進に取り組みます。

- ・Zoom 活用による活動形態の多様化推進（含むハイブリッド形式）
- ・三重分科会との合同例会の実施（狙い）交流による活動活性化・例会設定負荷軽減
- ・会員への ICT リテラシー向上に資する情報・機会提供

(2) 活動組織：分科会代表 河合康成、副代表 山岡美須永、会計 山下裕夫（敬称略）

地区役員：東部 森脇和子、中部 山田美代子、

(3) 本部・中部支部 関係の役割（敬称略）

- ・代議員（2023 年 12 月改選、任期 2 年）：山岡美須永・河合康成
- ・標準化推進リーダー：河合康成
- ・ICT リーダー：山岡美須永・河合康成

(4) 行政 関係（敬称略）

- ・静岡県消費生活審議会委員（2022 年 9 月 1 日～、任期 2 年） 山岡美須永
- ・静岡市消費者教育推進地域協議会委員（2021 年 7 月 1 日～、任期 2 年） 山下裕夫
- ・御殿場市消費者教育推進協議会委員（2022 年 4 月 1 日～、任期 2 年） 勝又長生
- ・静岡県入札監視委員会委員（2021 年 12 月 16 日～、任期 2 年） 池谷てる代

2022 年度活動報告

- (1) 活動組織：代表 陰地康行、副代表 田中睦、会計 前田芳子
 (2) 活動方針：会員の関心があるテーマを取り上げ、知識向上につなげるとともに地元三重について知り、楽しく参加しやすい分科会活動を目指す。
 (3) 行事内容

行事	開催日・場所	内 容	結 果
第 1 回 定例会	5 月 14 (土) 11 時～14 時	四日市市博物館 四日市公害展にて四日市公害 訴訟 60 年の記録見学会、プ ラネタリウム見学	四日市公害訴訟展を見学しボランティ アの方の説明を交えた公害展を見学。 参加者：11 名
第 2 回 定例会	7 月 16 日(土) 10:00～12:00 アスト津 5 階 研修室 C	「景品表示法の改正」勉強会 講師：池内裕司 様 公取委中部事務所	参加者：10 名 ネット販売における景表法その注意点 改正のポイントなど講義いただく。
第 3 回 定例会	9 月 10 日(土) 10:00～12:00 アスト津 5 階研 修室 C	コロナ禍での労働問題を テーマに講義頂いた。 講師：馬場弁護士 リベラ法律事務所	参加者：11 名 事例紹介とその対応策、判例など講義 頂いた。
第 4 回 定例会	11 月 12 日(土) 10:00～12:00 アスト津 5 階研 修室 B	少年非行の現状と傾向につい て。 講師 楠本 孝教授 三重短大法経科	参加者：11 名 少年犯罪の推移や傾向。少年法改正の 歴史、現状の問題点などを講義いた だく。
5 回 定例会	1 月 14 日(土) 10:00～14:00 アスト津 5 階 研修室 C	エンディングノートを作成と 新年互礼会開催。	参加者：12 名 参加者全員でエンディングノートを作 成してみました。
第 6 回 定例会	4 月 15 日(土) 10:30～12:00 Zoom 会議にて 実施。	今年度の反省と来年度の計画	参加者：10 名

2022 年度を振り返って

専門知識アップデートとして各回ごとのテーマを決めて勉強会と地元の発見を進めてきました。
 前年度コロナ禍で中止となった公害訴訟展の見学実施しました。参加者数の減少など上手く行かない事もありました。
 次年度も同様なテーマに沿って、さらに違った視線からも検討して進めて参ります。

2023 年度活動方針

本年度も会員各位のスキルアップと地元の文化や歴史探究を基本に、他分科会との交流会や会員内での自主勉強会も実施し明るく楽しく活動し全員参加を目指します。

2022 年度活動報告

- (1) 活動組織：分科会代表 山田圭子、副代表 清水美和子、会計 北川住江
 (2) 活動方針：メンバーとの出会いを、気づき・活きる力へ、絆として重ねる展開を目指す
 (3) 行事内容

行事	開催日・場所	内 容	結 果
第 1 回 定例会	4 月 17 日(日) 10:00～15:00 ハートフルスクエア G	・ 2022 年度計画 ・ 介護保険について	・ やりたいことを出し合い、選定 ・ メンバーの石井さんを講師に、介護制度の概要を学び、家族の介護や自分の老後について考えるきっかけを得た。
第 2 回 定例会	6 月 5 日(日) 10:00～12:00 ハートフルスクエア G	・ 支部大会報告 ・ 年間計画	・ 支部大会資料と講演会の概要を報告 ・ 秋にフィールドワークを実施する。 ・ リニューアルした岐阜関ヶ原古戦場記念館を中心に歴史に触れる一日を計画する。
第 3 回 定例会	8 月 7 日(日) 10:00～12:00 ハートフルスクエア G	・ 公正取引委員会って何してる？「安くて良い商品が買えるワケ～暮らしに身近な競争と表示のはなし～」	・ 中部事務所取引課 池内課長、安河内さんを講師に、独占禁止法と景品表示法の意義と運用を学んだ。
第 4 回 定例会	9 月 23 日(金・祝) 10:00～12:00 ハートフルスクエア G	・ フィールドワーク詳細計画 テーマ「地域の歴史と平和を考える」	・ 岐阜関ヶ原古戦場記念館と散策 ・ 日時決定 ・ 参加者を支部全体から募る ・ ガイド依頼とシアター予約等
第 5 回 定例会	11 月 20 日(日) 10:00～16:00 カラフルタウン岐阜	・ 岐阜市消費生活展 成年年齢引下げに関するクイズラリー	・ 消費者ネットワークと合同で参画。クイズを提供した。
第 6 回 定例会	11 月 26 日(土) 9:30～15:30	・ フィールドワーク 散策・昼食・記念館見学	・ 紅葉真っ盛りの古戦場を巡り、陣跡に立ち歴史の重みを感じた。 ・ 記念館では、様々な展示の工夫があり五感で楽しむことができた。
第 7 回 定例会	2 月 19 日(日) 10:00～12:00 ハートフルスクエア G	・ 2022 年度振り返りと 2023 年度の展望についての話し合い	・ コロナ禍の閉塞状況が続く中、対話での活動が増した。 ・ 昨年始めたオンライン会議も拡大したい
番外編	2 月 13 日～ 2 月 26 日	・ 日本通信販売協会からの「通信販売広告に関するモニター調査」に参加	・ TV・新聞・雑誌などで接する「通信販売広告」を収集し、悪質性の有無を考察。 まとめて報告した。

次ページに活動の様子を 2 件掲載します。



公正取引委員会から受講
8月7日(日) ハートフルスクエア G



フィールドワーク 関ヶ原に集合
11月26日(土) 岐阜関ヶ原古戦場散策

2022 年度を振り返って

新型コロナ感染拡大はなかなか収束せず、どのように進めていくか難しいスタートではあったが、新メンバーによる講師や公正取引委員会に講師を依頼する等、新しい活動もできた。フィールドワークでは中部支部のメンバーに参加を呼びかけ、意識拡大をしつつ、触れ合う醍醐味を感じられる体験でもあった。新メンバーの参加と活動を得られ、活動制限のある一年ではあったが、多くの学びと広がりもあった。

2023 年度活動方針

メンバーの持ち味をさらにはっきりしていく幅広い活動を目指す。
自身の資質向上はもとより、人生を振り返りつつ、未来を拓く活動を深化させていく。
WEB 会議や対面活動をうまく組み合わせ、メンバーの絆を強固にしていきたい。

2022 年度活動報告

(1) 活動組織：分科会代表 橘宏和、副代表 片谷千恵子、会計 橘宏和

(2) 活動方針：

- ・消費者問題等に関する勉強会等を開催し、消費生活アドバイザーとしての知見を広める。
- ・会員の興味に沿ったテーマを Zoom を活用して開催し、北陸分科会会員相互の交流を深める。

(3) 行事内容

第 1 回 定例会	7 月 9 日(土) 13:00～15:00 オンライン会議 参加者 8 名	消費者の生活に関わる企業が制作している紹介動画や PR 動画の視聴（テーマ：食）	大手菓子メーカーや食品加工メーカー等、食に関連する企業の動画を視聴し、消費生活アドバイザーの視点から意見交換を行った。
第 2 回 定例会	10 月 1 日(土) 13:00～15:00 オンライン会議 参加者 5 名	消費者の生活に関わる企業が制作している紹介動画や PR 動画の視聴（テーマ：住）	大手建材、設備メーカーや住宅メーカー、大手不動産等、住に関連する企業の動画を視聴し、消費生活アドバイザーの視点から意見交換を行った。
第 3 回 定例会	1 月 14 日(土) 13:00～15:00 オンライン会議 参加者 8 名	消費者の生活に関わる企業が制作している紹介動画や PR 動画の視聴（テーマ：衣）	大手アパレルメーカーや繊維メーカー等、衣に関連する企業の動画を視聴し、消費生活アドバイザーの視点から意見交換を行った。
第 4 回 定例会	3 月 11 日(土) 13:00～15:00 オンライン会議 参加者 6 名	・2023 年度北陸分科会運営方針 及び分科会人事について協議 ・2023 年度活動計画の策定	2023 年度の分科会活動方針、及び分科会人事について協議・決定するとともに、会員相互の近況報告を行った。

2022 年度を振り返って

これまで北陸分科会では会員相互の交流と親睦を深めるため、座学だけではなく現地に出向き、自ら体験・体感することにより、北陸 3 県の良さを再認識する活動を中心に組み込んで参りました。しかし、新型コロナウイルスの影響により 2021 年度に引き続き 2022 年度も会員が一同に会して活動することが出来ませんでした。

そのような状況下でしたが、Zoom により年 4 回の定例会を開催いたしました。

2023 年度活動方針

新型コロナウイルスの状況にも拠りますが、2023 年度は、これまで北陸分科会で取り組んで参りましたように、現地に出向き、自ら体験・体感することにより、北陸 3 県の良さを再認識する活動に戻していきたいと考えています。

活動内容につきましては消費生活アドバイザーとしての知見を広げるとともに「参加して良かった」と思っただけの内容とし、多くの会員に参加していただけるよう計画して参ります。

<活動方針>

- ・消費者問題等に関する勉強会等を開催、消費生活アドバイザーとしての知見を広める。
- ・北陸分科会会員相互の交流と親睦を深めるとともに、座学だけでなく現地に出向き、自ら体験・体感することにより、北陸 3 県の良さを再認識する。

<活動組織>

代表	橘宏和（石川）	福井県代表	片谷千恵子
副代表	片谷千恵子（福井）	石川県代表	北川智重子
会計	橘宏和（石川）	富山県代表	川合芳明
代議員	橘宏和（石川） 任期：2 年		

<定例会テーマおよび日程、内容について>

テーマ：古くから北陸各地に伝わる文化的価値がある伝統・創造の場を訪問し、地域の再発見に繋げるとともに、自ら体感・体験することにより、北陸の文化に触れ、北陸 3 県の良さを再認識する。

※第 1 回定例会：6 月 10 日（土）福井県立一乗谷朝倉氏遺跡博物館（予定）

4. 各研究会より

研究会 ACT 2022-2023

代表 花井 泰子

2022 年度活動報告

(1) 会員数 : 6 名

(2) 活動方針：暮らしに関わるさまざまな問題に対し調査・研究・提言することを目的として活動

(3) 行事内容

行 事	開催日・場所	内 容	参加
4 月度定例会	4 月 6 日 (水) 12:30~16:30 東山動植物園	屋外での定例会 ・年間予定の決定	5 名
5 月度定例会	5 月 18 日 (水) 13:30~15:40 伏見ライフプラザ 11F サロン	・「ACT de GO」実施計画案 ・柔軟剤の情報交換	5 名
7 月度定例会	7 月 6 日 (水) 13:30~15:00 伏見ライフプラザ 11F サロン	・「ACT de GO」実施計画 ・柔軟剤について (懇談会計画)	5 名
8 月度定例会	8 月 10 日 (火) 20:00~22:00 各自自宅	Zoom による関東支部会員との懇談 ・事前質問に回答、意見交換	6 名
9 月度定例会	9 月 7 日 (水) 13:30~16:00 伏見ライフプラザ 11F サロン	・懇談会の感想 ・C + 秋号原稿について ・サロン笑話会における 「ACT de GO」の実施計画	5 名
10 月度定例会	10 月 12 日 (火) 20:00~22:00 各自自宅	Zoom によるオンラインミーティング ・サロン笑話会における 「ACT de GO」の練習	4 名
11 月度定例会	11 月 16 (水) 13:30~15:50 伏見ライフプラザ 11F サロン	・C + 冬号原稿について ・サロン笑話会における 「ACT de GO」のリハーサル ・会計報告	5 名
12 月度定例会	12 月 8 日 (火) 13:30~14:30 名古屋市瑞穂区サロン笑話会	・サロン笑話会における 「ACT de GO」の実施	5 名
1 月度定例会	1 月 24 日 (水) 10:00~11:00 名古屋市瑞穂区 弥富コミュニティセンター	・弥富コミセン (はつらつ長寿推進事業) における 「ACT de GO」の実施	5 名
2 月度定例会	2 月 8 日 (水) 15:00~17:00 伏見ライフプラザ 11F サロン	・「ACT de GO」の感想、反省 ・C + 春号について ・次期代表と会計の選出	5 名
3 月度定例会	3 月 15 日 (水) 13:30~17:00 伏見ライフプラザ 11F サロン	・来年度の活動予定	5 名

(4) トピックス

久しぶりに開催できた高齢者サロンへの出前活動「お役立ち隊 ACT de GO」が、2022 年度は 2 度も開催することができました。方言を使ったご当地クイズでは参加者だけでなく、メンバーも楽しい時間を過ごすことができました。また、柔軟剤については、関東支部の会員と、Zoom を利用したオンライン懇談会を開催しました。遠方の会員と忌憚のない意見交換ができて、オンラインならではの活動でした。

2023 年度活動方針

ACT のメイン活動としてきた高齢者サロンへの出前活動「お役立ち隊 ACT de GO」は、2023 年度も引き続き、レベルアップを目指し進めていきます。今年度は、瑞穂区以外でも活動できたらと考えています。また、コロナによる制限が緩和されたことから、フィールドワークなど楽しい行事も入れながら、充実した 1 年にしたいです。

2022 年度活動報告

(1) 会員数 : 19 名

(2) 活動方針：消費者の身近な話題や疑問からテーマを選定し、顧客満足の視点から企業、行政、消費者それぞれの問題点の抽出、対策の提案をおこなってゆく。

ここ数年は、名古屋市消費生活フェアにて、旬の話題を研究しブース展示を通して成果を展示する活動を進めています。また、年に 1 回、消費生活に関係する書籍を、会員内で選択し読書後、意見交換をしています。

(3) 行事内容：基本は、定例会を毎月第三土曜日午後開催、2022 年度はオンライン開催 (Zoom)

開催日	テーマと概要	参加者
4 月 16 日 (土)	・名古屋市消費生活フェア開催概要の共有と活動内容の検討 ・課題図書「暮らしの中のニセ科学」感想共有	14 名
5 月 21 日 (土)	・本年の名古屋市消費生活フェアについてテーマの検討を実施 ・本年度取り組み内容「防災」関連の話題共有	14 名
6 月 18 日 (土)	・「名古屋市消費生活フェア 2022」開催概要説明、質疑応答 ・「防災関連」についての展示内容概要検討 ・衣食住の 3 チームで検討を進めることで決定	14 名
7 月 16 日 (土)	・「名古屋市消費生活フェア」での展示・パンフレット掲載内容の検討 ・パンフレット掲載のタイトル・説明文を決定 ・各チームの検討内容と共通部分の内容を検討	14 名
8 月 20 日 (土)	・「名古屋市消費生活フェア」での展示内容の検討 ・各チームの検討内容と共通部分の内容を検討	13 名
9 月 17 日 (土)	・名古屋大学「減災館」でのフィールドワークを実施	9 名
10 月 15 日 (土)	・減災館での見学内容を共有 ・「名古屋市消費生活フェア」での展示内容の検討 ・各チームの検討内容と共通部分の内容を検討	13 名
11 月 12 日 (土)	・名古屋市消費生活センターとオンラインのハイブリッド開催 ・「名古屋市消費生活フェア」での展示・説明内容等の最終確認 ・当日準備物の最終チェック、フェア当日の時間割の決定	17 名
11 月 26 日 (土)	・名古屋市消費生活フェアにブース出展し、開催中の運営実施 ・「防災対策もエシカルに」をテーマに展示 ・時間割を決めて参加者集結による密を避けて実施	18 名
1 月 21 日 (土)	・23 年度活動テーマの選定…食の関係で決定 ・「名古屋市消費生活フェア」の振り返り ・次回本読み候補の決定	13 名
2 月 18 日 (土)	・食のテーマに沿って精進料理のランチミーティングを実施	15 名
3 月 25 日 (土)	・次年度の代表選出、会の運営方法について決定 ・精進料理・昆虫食の感想共有。23 年度フェア開催概要の共有	16 名

(4) トピックス

年間の取り組みテーマを、2021 年に取り組んだ地球温暖化で激甚化することが予想されていてさらに、この地域は高確率で発生が予想されている南海トラフ地震の影響を受ける地域でもあるので防災をテーマに決め、非常時の備えを見返してみたところ、非常用に備蓄をすると忘れてしまつて日切れになり、廃棄をするということが起こりがちですが、フェーズフリーという考え方で、通常時と非常時の境をなくすことでエシカルに対応できることを学びましたので、それらについてまとめ名古屋市消費生活フェアでご紹介しました。

2022 年は、久しぶりにオアシス 21 へ戻っての開催で、広いブースでゆったり説明できました。やはり、オアシス 21 は一般の方々も多く、盛り上がったフェアになったと感じています。次ページに活動の様子を掲載します。

2023 年度は、今年と同じく名古屋市消費生活フェアの会場が栄のオアシス 21 での実施が決まっております。本年度の取り組みテーマは、コロナ禍やロシアによるウクライナ侵攻で世界の物流に混乱が生じる中、自給率の低さや反面、高止まりしている食品ロスの問題などを抱える、食にテーマを絞って研究を進めていく予定です。

名古屋市消費生活フェア☆2022

いつ起きるかわからない災害、名古屋でも様々な災害が起きてきました。



地震

**濃尾地震 1891年(明治24年)
M8.0 日本最大の直下型地震**

地震発生時刻(地震発生時刻) 震源地(震源地) 震源深度(震源深度)
1891年(明治24年) 10月31日 10時11分 5.7km

被害状況(被害状況) 死者(死者) 1,500人以上
負傷者(負傷者) 2,000人以上
家屋倒壊(家屋倒壊) 10,000以上

被害状況(被害状況) 死者(死者) 1,500人以上
負傷者(負傷者) 2,000人以上
家屋倒壊(家屋倒壊) 10,000以上



風水害

明治22年9月 台風・風水害

被害状況(被害状況) 死者(死者) 1,500人以上
負傷者(負傷者) 2,000人以上
家屋倒壊(家屋倒壊) 10,000以上

被害状況(被害状況) 死者(死者) 1,500人以上
負傷者(負傷者) 2,000人以上
家屋倒壊(家屋倒壊) 10,000以上

**昭和東南海地震 1944年(昭和19年)
M8.0 プレート型地震**

被害状況(被害状況) 死者(死者) 1,500人以上
負傷者(負傷者) 2,000人以上
家屋倒壊(家屋倒壊) 10,000以上

被害状況(被害状況) 死者(死者) 1,500人以上
負傷者(負傷者) 2,000人以上
家屋倒壊(家屋倒壊) 10,000以上

ローリングストックを活用した災害時の食の備え方を考えてみましょう

1. 災害用食糧備蓄の課題と対応

- ・災害食糧保管のためのスペースが必要
- ・多くの食糧を無駄(消費期限切れで廃棄)にしている

⇒ **フェーズフリーの考え方に則り、特別な災害備蓄はせず、日常食糧を上手に使い回す**

【ローリングストック】 【ローリングストック食料事例】



ローリングストック

普段の食料を少し多めに買い置き、賞味期限を考えた古いものから消費、消費した分を買い足す備蓄方法



食料備蓄事例

1週間(7人2人)の備蓄

主食(主食) 2週間(2週間) 2週間(2週間) 2週間(2週間)

副食(副食) 2週間(2週間) 2週間(2週間) 2週間(2週間)

飲料(飲料) 2週間(2週間) 2週間(2週間) 2週間(2週間)

2. 災害時の食の課題と対応

- ・十分な水や火(加熱)が使えない
- ・冷たい、おいしくない

⇒ **調理の工夫により、水を使わず、微加熱でもおいしい調理方法をご紹介します**

【ミックスビーンズ楽あん風】



缶詰(缶詰)をゆで、お湯をきいてペースト状に、つめぎ

適度に火をいれる

きな粉をかけて完成!

【コンコンビーフ】



コンコンビーフ(コンコンビーフ)をゆで、お湯をきいてペースト状に、つめぎ

適度に火をいれる

きな粉をかけて完成!

カセットコンロ、水、ポリ袋、ラップがあるとさらに便利



食器にラップを被せれば、災害時の献立に、温める、保存する



食器にラップを被せれば、災害時の献立に、温める、保存する

被災するのは明日かも？ あなたの日常生活をエンカルの見直しして防災対策にしましょう。



2年9月 東海豪雨(線状降水帯)

被害状況(被害状況) 死者(死者) 1,500人以上
負傷者(負傷者) 2,000人以上
家屋倒壊(家屋倒壊) 10,000以上

被害状況(被害状況) 死者(死者) 1,500人以上
負傷者(負傷者) 2,000人以上
家屋倒壊(家屋倒壊) 10,000以上



南海トラフ地震 30年発生確率・・・70～80%

被害状況(被害状況) 死者(死者) 1,500人以上
負傷者(負傷者) 2,000人以上
家屋倒壊(家屋倒壊) 10,000以上

被害状況(被害状況) 死者(死者) 1,500人以上
負傷者(負傷者) 2,000人以上
家屋倒壊(家屋倒壊) 10,000以上



【注意危険水位を超過した河川数】

2014 83 2015 159 2016 368 2017 455 2018 474 2019 403



NACS 中部支部 ADCs 研究会



フェア会場全体風景



フェア開会宣言



NACS 中部支部ブース



段ボールで作った簡易トイレ



参加した ADCS 研究会メンバー



参加した ADCS 研究会メンバー

2022 年度活動報告

(1) 会員数 : 11 名

(2) 活動方針：身近な食生活の話題を取り上げ学習し、情報を発信、提言することを活動目的にしている。健康で楽しく豊かな食生活の為に、勉強会や講座等を開催している。

(3) 行事内容

行 事	開催日・場所	内 容	参加
定例会①	4 月 21 日 (木) 20:00～21:30 オンライン	みりん冊子の展開、 2022 年度の活動テーマについて	9 名
定例会②	6 月 6 日 (月) 20:00～21:05 オンライン	みりん冊子の展開、 VISON 見学会について	11 名
見学会	7 月 15 日 (金) 三重県多気町 VISON	ワークショップ、蔵見学	9 名
定例会③	9 月 12 日 (月) 20:00～21:30 オンライン	みりん冊子の展開、 VISON 見学の振り返り	11 名
定例会④	12 月 15 日 (木) 20:00～21:30 オンライン	みりん冊子の展開、 新しい研究テーマ「発酵」に決定	10 名
定例会⑤	2 月 27 日 (月) 20:00～21:10 オンライン	みりん冊子の展開、 地域の発酵食品について	10 名
食事会	3 月 12 日 (日) 12:00～14:00 名古屋市内	2022 年度の振り返り、 2023 年度の活動について	8 名

(4) トピックス

- ・ 2021 年に完成したみりんのパンフレットをより多くの方々に知っていただけるよう、各方面に展開しました。
- ・ みりに続く新しい研究テーマを決めました。広く興味・関心のあることについて検討を重ね、「発酵」をテーマに研究していくことになりました。
- ・ 三重県多気町の商業リゾート施設 VISON を訪ね、ハーブチンキ作りのワークショップと、みりん、酢の蔵見学を行いました。当研究会では 2013 年度以降、和食の伝統的な調味料をテーマに活動してきたこともあり、日本の食文化を支える「発酵」について、より興味・関心が深まりました。

2023 年度活動方針

2023 年度は、引き続きみりんのパンフレットを広く展開します。新しいテーマ「発酵」について、地域の伝統食品をベースとしながら、調査・研究を進める予定です。

Ⅱ. 2022 年度予算執行状況

1. 収入の部

収入は昨年度に比べて約 3.4 万円の減額となりました。

科目	収入	前年度	差異	備考
会員基本割(269 名)	1,149,975	1,184,175	△34,200	会員減 8 名
賛助会員還元(4 社)	240,000	240,000	0	増減なし
特別収入	※ 30,000	30,000	0	日産協協力金増減なし
収入合計	1,419,975	1,454,175	△34,200	

※他に本部事業として「産業人材研修セミナー」「ICT 普及啓発事業」等を実施しましたが、本部管理のため記載からは除きました。

2. 支出の部

昨年から続くコロナ禍で、対面によるイベントや交流会の自粛等により約 20 万円を残す結果となりました。

予算区分	事業	予算:a	実績:b	差異 :a-b
支部共通	情報誌発行	60,000	0	60,000
	支部大会(報告資料印刷・郵送)	70,000	75,034	△5,034
	支部郵便受付代行費	20,000	20,209	△209
分科会 活動助成	静岡分科会	185,000	169,735	15,265
	三重分科会	120,000	49,474	70,526
	岐阜分科会	92,000	50,694	41,306
	北陸分科会	106,000	0	106,000
	予備予算	8,975	0	8,975
支部事業	自主研究会助成(3 研究会)	90,000	84,103	5,897
	広報委員会	30,000	0	30,000
	研修会委員会	150,000	128,767	21,233
	講師養成	30,000	0	30,000
	事業委員会	90,000	137,926	△47,926
	会員活動委員会	30,000	30,000	0
	合格祝賀会交流会	30,000	18,324	11,676
	支部大会(講演会)	100,000	152,125	△52,125
	総務委員会	208,000	306,513	※1△98,513
	支部合計	1,419,975	1,222,904	197,071

※1) 次年度支部大会の会場費(104,050)の前払いを含む

Ⅲ. 2023 年度運営方針、予算

1. 運営方針

3 年余り続く新型コロナウイルス感染への国の対応が 5 月に大幅に軽減されたこともあり、コロナ前のように対面での活動機会が戻ってきます。“ウイズコロナ”下で利用の進んだオンラインも引き続き活用しながら、会員満足と社会への情報発信を進めてまいります。

今年度は継続して以下を重点として取組み、支部活動の活性化と運営効率化を進めていきます。

(1) 会員減への対応

- ・日産協共催の資格者交流会等を活用した有資格者の入会促進

(2) 会員向け情報発信の充実

- ・本部ホームページリニューアルに合わせ、支部ホームページについても掲載内容や管理方法の見直しを進める。

2. 予算

収入は昨年度に比べ約 4.2 万円の減額となりました。また、資料作成時点で支部単独の受託事業の予定はありません。

＜収入＞ 会員数は 2 月末時点

配分	2023 年度	前年度	差異	備考
会員基本割(266 名)	1,137,150	1,149,975	△12,825	注記 1
賛助会員還元(4 社)	240,000	240,000	0	
特別収入	0	30,000	△30,000	日産協協力金
合計	1,377,150	1,419,975	△42,825	

注 1) 支部会員数 269 名から昨年度会費未払い 3 名分が除かれています。

＜予算配分＞

配分方法については昨年度までと同様としました。

- ・分科会活動助成は支部共通を除いた予算額に対し会員数(269 名)から按分。
- ・委員会予算は昨年度実績を元に、実績のなかった事業は配分無しとした。
- ・研究会助成は従来通り。

総予算の減少で不足はあると思いますが、運用途中で融通し合いながら進めたいと考えています。

区分	事業名	2023 予算	備考
支部共通	支部大会(年度活動報告)	75,000	前年実績(印刷、郵送費分)
	支部郵便代行	20,000	前年実績並み(産能大)
分科会 活動助成	静岡分科会	200,000	会員40→42名:200,187
	三重分科会	120,000	会員26→25名:119,159
	岐阜分科会	100,000	会員20→21名:100,093
	北陸分科会	91,000	会員23→19名:90,561
	予備(分科会との通信費に利用)	11,150	他県在住会員2名分他
支部事業	3研究会	60,000	20,000/研究会
	広報委員会	30,000	ホームページ機能の充実のため
	研修委員会	150,000	2022年度予算並み
	事業委員会	140,000	前年実績並み
	会員活動委員会	30,000	前年実績並み
	合格祝賀会 交流会(3月)	30,000	
	支部大会(講演会費)	100,000	講演会(謝金+交通費)、会議費
	総務委員会	220,000	運営会議、会計処理等の支部運営関係
	支部合計	1,377,150	

IV. 賛助会員・支部会員数

1. 支部関係賛助会員（五十音順）

愛三西尾法律事務所 株式会社アイシン 中部電力ミライズ株式会社
東邦ガス株式会社

2. 支部正会員 268 名（2023 年 4 月末現在）

愛知県 160 名、三重県 25 名、岐阜県 21 名、静岡県 41 名、福井県 9 名、
石川県 5 名、富山県 5 名、奈良県 1 名、岡山県 1 名

V. 2023 年度運営体制 敬称略

◇運営委員（◎は委員長）

支部長	星野 不二雄
副支部長	北川 住江
会員活動委員会	◎山中 みゆき・長澤 公子
広報委員会	◎中島 佳子・稲垣 隆信・中山 好昭
研修委員会	◎日向 淑子・伊藤 昌伸・恒川 日出美
学校教育担当	北川 住江(兼任)
事業委員会	◎西田 敏明・山田 勲・河合 成信・皿井 進
総務委員会	◎瀬古 昇一・大塚 秀樹・上田 之道（兼 会計担当）

◇分科会代表・副代表

静岡分科会	河合 康成（副）山岡 美須永
三重分科会	陰地 康行（副）田中 睦
岐阜分科会	山田 圭子（副）清水 美和子
北陸分科会	橘 宏和（副）片谷 千恵子

◇研究会代表

研究会 ACT	花井 泰子
AD・CS 研究会	稲垣 隆信
食生活研究会	島田 佳江

◇代議員 10 名（五十音順）

稲垣 良利・陰地 康行・河合 康成・北川 住江・清水 美和子
瀬古 昇一・橘 宏和・星野 不二雄・山岡 美須永・山田 圭子

この報告書に関するお問い合わせ、ご意見等は、中部支部総務委員会まで。

Eメール soumu@chuubu.nacs.or.jp



<http://chuubu.nacs.or.jp/>